

平成24年度への繰り越し事業……………②
一般質問のやりとり報告……………④～⑩

24年度一般会計補正……………③



プールは楽しいな!! — こどもの丘保育園 —

三小体育館耐震改修工事着工へ!!



6月定例会が14日～18日までの5日間開かれました。今回は県営南関西地区換地事業など2件の繰越明許費の繰越報告をはじめ、事故繰越し1件、専決処分の報告及び承認が3件、南関町大規模太陽光発電設備設置促進条例の制定など条例関係2件、町道の路線廃止1件、町道の路線認定2件、熊本県市町村総合事務組合理約の一部変更、熊本県後期高齢者医療広域連合規約の一部変更、工事請負契約の締結、平成24年度南関町一般会計補正予算他特別会計補正予算4件が審議され可決しました。

平成24年度への繰り越し事業分 一般会計

県営南関西地区換地事業（換地業務）	300万円
新幹線濁水対策受託事業（登記委託）	919万3千円
道路新設改良事業（大西～梅葉諏訪線）	1,900万円

平成24年度への事故繰り越し事業分 一般会計

道路維持費（町道豊永2・3号線強化舗装）	376万9,500円
----------------------	------------

専決処分(平成24年3月31日専決)の報告及び承認

南関町税条例の一部を改正する条例の制定について。

南関町国民健康保険条例の一部を改正する条例の制定について。

平成23年度南関町一般会計補正予算（第7号）6,579万3千円追加し、総額50億7,416万1千円とする。



平成24年度 条例関係2件

南関町大規模太陽光発電設備設置促進条例の制定について。

南関町印鑑の登録及び証明に関する条例等の一部を改正する条例の制定について。

町道の路線廃止1件

米田～冷水線 延長496.0m

町道の路線認定2件

米田～冷水線 延長566.0m
徳丸線 延長 80.0m

工事請負契約の締結の議決

南関第三小学校屋内運動場耐震改修工事

金額 1億9,267万5千円（工期平成25年3月8日まで）

一般会計 3,822万8千円追加し、総額49億2,099万6千円になりました

歳入

国庫支出金	217万1千円
県支出金	879万2千円
諸収入	86万5千円
町債	2,640万0千円
	3,822万8千円

特別会計補正

公共下水道事業	195万円
簡易水道事業	3千円
介護サービス事業	2,080万2千円
浄化槽整備推進事業	5千円

歳出

議会費	議会費	30万4千円
総務費	総務管理費・徴税費・ 戸籍住民基本台帳費・ 選挙費・統計調査費	△3,169万3千円
民生費	社会福祉費・児童福祉費	2,538万2千円
衛生費	保健衛生費	887万9千円
農林水産業費	農業費	731万3千円
商工費	商工費	78万9千円
土木費	土木管理費・道路橋梁費・ 下水道費・浄化槽整備推進事業費	2,042万1千円
消防費	消防費	322万3千円
教育費	教育総務費・小学校費・中学校費・ 社会教育費・保健体育費	298万6千円
予備費	予備費	62万4千円
		3,822万8千円

平成24年度 一般会計の主な補正

総務費 (人事異動によるもの)	△2,202万4千円
財政調整基金費 (財政調整基金積立金)	△1,700万円
測量設計委託料 (玉名パーキングエリアスマートIC)	488万3千円
備品購入費 (災害時要援護者福祉避難所備品アルミ製防災倉庫外)	444万9千円
扶助費 (障害児通所支援給付費他)	463万5千円
総合文化福祉センター費 (温泉水中ポンプ取り替え工事)	252万円
南関西地区土地改良事業計画書作成業務委託料 (高久野、今工区)	827万8千円
農村広場施設整備工事 (Cコート照明設備改修工事)	306万6千円
道路新設改良費 用地、立木補償費 (松葉線、相谷・坂の上線、大西・桜原線、墨摺川改修)	1,045万9千円
防災管理費自主防災組織設立促進事業補助金 (29地区)	290万円

通学路危険場所 早めに改良を!

山口



山口純子
8番議員

Q 小原のクボタ前から入る通学路は農家の方々が事故等心配されているので、変更を申されていると聞いているが、この件について委員会の見解をたずねる。

A 教育長 中学生の自転車通学生生の安全を考えると、農業者の方々は町道をくぐってボックスの方から農道に曲がる方が危険だと地元の方の思いもある。小原の交差点の県道のボックスも狭いうえに暗い、縁石に車がぶつかると事故も発生しており、一小、二小、三小校区の自転車通学生及び歩いて通う生徒まで一绪になってしまい、逆に変危険が増す。農業者の方々に理解をいただき、通行の邪魔



A 教育課長 JAのスタンド前の歩道が切れていて非常に危ないという事で、学校とPTAと会議を持ち元の通学路の方が安全であるので戻された。農繁期の時は子どもたちが止まるよう街頭先生を通じて申し上げます。

Q 坂下三ツ角及び通学路の安全について

A 建設課長 平成23年度繰越工事として百貨店前の歩道工事が完了。24年度において県の方で用地と補償について交渉を進められ、25、26年度、2ヶ年間で工事を進める方針。

A 教育長 危険箇所については4月の校長会で危険箇所マップを報告



された。荒尾玉名で一番優秀な危険マップを作ったのは三小校区で、危険箇所なども全部写真撮って全世帯に配布する計画を立てた。中学校も通学路の危険箇所全部の報告を受けている。

むすび 悲惨な事故がないよう道路整備は私たちの責務、危険箇所を把握しながら早めに改良検討を願う。



井下 俊

1 番議員

今後、町の交通体系は？ 井下

利用状況、経費など踏まえ 検討していきたい

総務課長

Q 本来バスというのは町民の方の足となるべきものだと思うが、現在、町内を運行しているバスに関しては便数も少なく、乗っておられる人も僅かで空気を運ぶ「空気がバス」状態になっている。このバス事業者に対し、町からいくらの補助金が支払われているのか。また、今後このままで良いと思うか。

A 総務課長 現在、産交バスに2191万8000円、西鉄バスに1040万7000円を支払っている。

Q 他市町ではドアからドアへというデマンド交通を運行しているところもある。高齢者の方が外出する機会も増えるなど、満足度も高い数値

を出している。町として対策を考えているか。

A 総務課長 バス事業者に対する補助の投資効果が少ないのが現状であり、利便性やコスト面などを考慮し、今後コミュニティバスやタクシー等の活用も検討していかなければならないと思っている。

A 町長 今後、新たな形を検討していきたい。

子どもの安心・安全について

Q 子供の安全対策の一つとして、多くの家に貼ってある「駆け込み110番のシール」について、対象の家がすでに空き家になっていたり、シール自体がはがれているなど目に付くが、確認とか見直しはされているか。

A 教育長 3月までに学校の校応援団事業というのがスタートしており、公民館に統括コーディネーター、各学校には支部コーディネーターとい

う町委嘱の職員が配置されていて、その方々とPTAが連携を取り新設や撤去を整理するための取り組みがなされた。また、「110番の家」という旗も町に20本寄贈があり、各校区ごとに5本程度、商店を中心に立ててもらえるよう配布している。空

き家については、今後点検をしてもらう必要がある。

Q シールについてはサイズが小さいのではないかと。他市町ではもう少し大きめに作ってある。これは、いざ駆け込み場合目立って良いと思うが、何よりもまず、人

目につきやすいため、犯罪の抑止力にもつながると思うが。

A 教育課長 前回作ったシールが1,000枚程余っているのですが、大きいサイズだと抑止力においては確かに一番効果があると思うので次回には大きいサイズで作りたいと思っている。

Q 防犯灯の数は増えてきているが、防犯の意味から考えれば大通りから一本もしくは二本入った人通りの少ない道路にこそ必要ではないか。

A 教育長 「是非、ここには必要だ。」という強い要望の所は対応していくつもりだが、財政的な負担と危険度の両面から考えていく必要がある。

おしひ 子どもは町の宝です。不安を抱かずにのびのびと学校生活・日常生活を送ってもらうために町としても出来る限りの配慮をすべきである。



熊本グリーン農業制度への 取組みは？

鶴地



鶴地 仁
4 番議員

一定の基準を作成し、南関 ブランドを確立したい 町長

Q 県では安全・安心な農産物を供給する熊本グリーン農業制度に取り組まれているが、農業者の割合、生産高ともまだまだ少ないのが現状である。

A 町長 本町では熊本グリーン農業制度の前身である熊本型有機農業有作くんが平成5年ごろから取り組んできた。現在、合鴨水稲栽培実践の5農家が登録されている。

町独自の取り組みとして、栽培に関する一定の基準を作成し、各生産部会、出荷者を対象とした南関型有機農業の構築と

南関ブランドの育成、確立を図りたい。支援体制については、生産者の組織化を図り、生産者と協力しながら販売促進を行いたい。

A 経済課長 熊本グリーン農業は、登録のハードルが高く、作った農産物をチェックしての販売ということなので、熊本型ではなく南関型の基準を準備中である。南関町にも「とっぴ丸君」があるので、こういったマークを使って対応していきたい。

おすひ 農産物にマークを付けて販売すれば、生産者と消費者の意識が変わる。意識づけということで、例えばEMの活用、合鴨農法、無農薬、減農薬といった取り組み農家と消費者、販売所、生活研究グループ合同での体験発表会、試食会といったものを開催していけばPRになる。

Q EM（有用微生物群）の活用について

A 町長 園芸など一部の農家でのEM活用を聞いてはいたが、農業等に積極的な取り組みは今のところはない。合鴨水稲法といった環境に優しい農業の普及と拡大に取り組みていきたい。

A 教育課長 南関第1〜3小学校はEMを使用している。掃除の時間が短縮されたという感想を受けている。第4小学校



EM液の投入 南関一小プール

Q 環境保全に対する取り組みとして、各地でEMの活用が盛んである。EM活性液を河川の浄化やプールの掃除に利用されている。EMの活用というところで、①町内のプール6箇所の掃除方法 ②農業等への取り組み状況を問う。

A 町長 園芸など一部の農家でのEM活用を聞いてはいたが、農業等に積極的な取り組みは今のところはない。合鴨水稲法と

Q 海洋センタープールは高圧洗浄、取れな

A 町長 園芸など一部の農家でのEM活用を聞いてはいたが、農業等に積極的な取り組みは今のところはない。合鴨水稲法と

A 教育課長 推奨している学校の感想は、ヘドロが少なくなり汚れが取れやすくなったといったことである。中学校も検討したいという回答だった。地域婦人会等ですぐく普及している

おすひ EMに取り組んでいっている人

EMは150力国に技術、利用法が伝えられ、55力国で実際に使われており、15力国で国家プロジェクトとして取り組まれている。



境田 高

2 番議員

武道が必修化、安全対策は

境田

教育長

指導講習会が行われている

Q 県内のいじめも増加傾向が見られ、学校に行きたくないと訴える生徒がいると聞く。これは、子どものSOSの知らせだ。自殺する子どもの数は平成18年度から毎年150人前後で推移し、改善の兆しが見られない。いじめ、不登校は社会に出て、引きこもり、ニートといった現実が見受けられる。社会現象と考えてもおかしくない。本町の現状と、取り組みについて尋ねる。

A 教育長 不登校は数年まではなかったが、今年5月以降1名である。小学校と中学校とのパイプがきちんと整わないとこのギャップは埋まらないということ、最近では小、

中連携の大事さが叫ばれている。全体が和を作れるように、人権学習に取り組んでおり、現在、南関中では年間6回、全校の人権集会を開いている。自殺予防については、事件が起きるたびに文科省から命の尊厳の指導をということで指示がくる。受け継いだ命というのを粗末にはならぬ、自分の命であろうと隣にいる友達の命であろうと、みんな同じ値うちという力を注いでいる。

おすひ 課題には、早めに取り組むこと、生徒に寄り添うことが大事だ。

Q 本年度から中1、中2は男女とも武道が必修となり、柔道を選択しているようだが、武道の授業が本格化するのはいつからか、中学高校では経験が浅い1年生が多く、投げ技による頭や首の損傷が目立っている。安全対策、授業計画はどのように進んでいるのか尋ねる。

A 教育長 体育を担当する教師に対して柔道の指導講習会が行われている。体育主任は今まで2回受講、ほかの体育の教員も1回ずつ済んでいる。柔道は秋から冬にかけての計画だ。

おすひ 柔道は、受け身3年基礎的な知識や受け身などを中心に、授業を行い、準備運動に力を注ぐことが大事だ。

Q 県内には発達障がいがある子ども達を対



おすひ 親は教育にどのよ

A 教育長 南関町の場合、4種類の支援学級があります。発達障がい、その中の1種で、町内小学校には、小に3、二小に2、三小に3、四小に1クラスの9学級と中学校に2学級があります。この11学級には学級担任とは別に全てマンツーマンの先生が県費職員として別に配置されており、手厚い支援制度ができています。

象にした特別支援学級が980あり、約10年前の3倍に増えている。接し方や教育、治療次第で改善する場合もあるようで、最も重要なことは早期発見だ。希な存在ではなく、身近にある障がいである。当町の支援対策について尋ねる。

Q 長引く不況低迷で教育現場にも深刻な影響が出ているようですが、経済的に困窮する家庭に対する就学支援は認知度が低く、対象となる低所得層に必ずしも行き渡っていないとの指摘があるが、町の支援体制、利用状況について尋ねる。

A 教育長 認定家庭、去年は61世帯であったが、今年度は53世帯、児童生徒数で91名だったのが82名ということで就学援助を行っている。

おすひ 支援に対して声を上げるにはなかなか難しい。声をかけて、手をさしのべることが大事だ。

保健センターで兼務はやめてもらいたい

唐杉



唐杉 純夫
10番議員

一貫性のある介護予防体制を図りたい

福祉課長

Q ①地域包括センターの充実
介護保険事業計画によると、地域包括支援センターの業務内容は、要支援・要介護状態となるおそれのある高齢者を把握するための「2次予防事業対象者の把握」、要支援者が出来る限り要介護状態とならないための「介護予防ケアマネジメント」などの業務が含まれているが、実際には1次予防事業対象者の把握、2次予防事業対象者の把握とも保健センターで行われてきている。何故か。

A 福祉課長 平成18年4月、地域包括支援センター発足時は3名体制の予定であったが、昨年度まで2名体制できたため、保健センター或いは福祉課兼務できていた。今



南関町保健センター
地域包括支援センター

年度から社会福祉士を採用し業務内容を正常な形にしたいと考えている。

Q ②一歩進んだ人口増対策はないか

A 町長 人口増政策に要課題として、町の最重要あり、平成23年度からは「住んでよかったプロジェクト推進事業」の本格的な事業を展開してきた。出生数の増加など一定の

効果は見えていますが、今後にもさらに事業を推進していかなければならない。住環境については、町営住宅や民間のアパート等にも空きが少なく、空き家バンク事業での対応も限りがあることから、住宅用地の整備計画

について、今年度からでも取り組みたいと考えている。

Q 住宅新築とか土地開発基金の運用などについて、具体的な検討がなされていれば説明を求めます。

A まちづくり推進課長 用地については、町有地も含めて種々検討している。1区画が80坪、90坪となれば14、15区画では5,000平米程度は確保して取り組みたいと考えている。

Q 以前質問したときは100戸、200戸、500戸とかいった規模のシミュレーションだけでも考えていたが、そこまではまだ至っていないということか。

A まちづくり推進課長 100区画とかの大きい区画ができれば理想だと思いが、まずはモデル事業になるようなことで進めたい。民間でも、色々な事業を検討されており、町が支援すべきところは支援を進め連携を深めていきたい。

Q ③産廃処分場の安全について
産廃処分場内の支柱は何本立てるのか。

A 審議員 県は一応34本の案を示しているが、今後施工業者の提案によつては大幅な減少になることも考えられる。

Q 処分場の遮水工事実績はあるのか。

A 審議員 供用を開始しているものは北海道の十勝市、青森県木造町などがあるが、いずれも一般廃棄物処分場で、産廃処分場ではない。クロード型で柱を設置している産業廃棄物の処分場についてはまだ実績がない。

Q 処分場内の地下水位は遮水コンクリート底面の上が下か。

A 審議員 降水期には底面部よりも少し上にきていると思われるが、底面部については、遮水工の下にコンクリート壁を設置し、さらにその下に地下水の集排水管を持つてくる、法面についてもコンクリートの外側に地下水の集排水管を持つてくるという計画で、浸水には万全を期している。

おしり 産廃処分場の安全性だが、実績があるとすることは、未来永劫にわたって安全だという保証があつて初めて実績があると言えるわけで、そういう意味では実績があるとは言わない。遮水工も同じであり、遮水工の安全実績はない。今後は町が主体性を持って答えられるような説明をして貰いたい。



島崎英樹

6 番議員

出生数も増加、第一保育園 存続の考えは

島崎

町長

25年度統合で決めている

① 消防広域化

Q 城北ブロックは有明広域、山鹿植木広域、阿蘇広域で統合を目指しているが、実現しても「飛び地」が生まれるなど「地域の消防力」強化に疑問の声が聞かれる。統合協議が進む中、町の今後の姿勢を問う。

A 町長 経費の負担割合や定員配置などを今後、協議していく。菊池広域が抜けているため飛び地が生じ、消防力や住民サービスの低下が危惧される。慎重に議論していきたい。

② 第一保育園の存続

Q 第一保育園の平成25年度統合一園化撤回を求める1700人超の署名が町に提出された。出生数が増加するなど、統

合計画が策定された当時と現在では、町を取り巻く環境に変化があるようだ。そこで五年ほど、公立・民間二園体制での保育園存続を考えた方がいいのではないかと。再考の有無を問う。

A 町長 25年度統合は保護者の代表を含めた第三者委員会などで協議され、計画されたもので、来年度統合で決めている。

Q 民営化検討委員会の目的に「事後における調査検討」がある。これは保育園統合・民営化の検証を意味する。22年9月のこどもの丘保育園の開園後、検証する会議はあったのか。

A 福祉課長 保護者なり現場なりの検証はされていると聞いている。会議は開催されていない。

A 町長 (こどもの丘保育園は) すばらしい運営ができています。今回の運動会も涙が出る

第一保育園の夏祭り



ような輝いた運動会だった。それが一つの検証になると思う。

Q 検証には客観性が欠かせない。統合・民営化の検証をふくめ子育て全般についてアンケート調査が必要ではないか。

A 町長 実施の考えはない。

おすひ 統合を決まったことと片付けては、署名をした人の思いは無駄になる。きちんと検証される間だけでも第一保育園の廃止・統合を待つ必要があるのではないだろうか。

Q ③こども医療費助成制度の拡大

Q 関係者の努力で平成24年6月から、こども医療費現物給付(窓口無償化)が福岡県大牟田市、みやま市高田町(旧高田町)まで拡大された。そこで残る、調剤の現物給付実現の見通しを尋ねる。

A 町長 薬剤師会と協議を終え、今年7月から実施する。

Q ④協働のまちづくりへ向けた懇談会の開催

Q 年内に開く予定のようだが、開催方法を尋ねる。

A 町長 10月下旬ごろ、校区ごとに4会場で開く計画。内容は今後検討していく。

Q ⑤県知事の出前講座

Q 町内開催の考えはないか尋ねる。

A 教育長 子どもの夢のために、ぜひ開催してほしいと県へ要請している。あとは知事の方針次第で、開催を期待している。

成年後見申立人の適否の 基準はあるのか

打越



打越 潤一
3 番議員

本人、配偶者、 4親等以内の親族

福祉課長

Q 本人の権利はどうなるのか。

進めてまいりたい。政、事業者ということで

A 福祉課長 申立人は本人、配偶者、4親等

Q 成年後見申立人の適否の基準はあるのか。

が市町村長、検察官。住民の方が申し立てをされるにはいろんな手続きがあるの非常に戸惑うところが実際にあると思われ。このために地域包括センター、民生委員、社会福祉協議会等での制度について相談をしていただいて、申し立てのお手伝いをさせていただくので、申立人については申し立てができる方に該当するならばその方にしてください、その手助けを行政、事業者ということで

A 福祉課長 地域でできるだけ介護の予防教室、ふれあいサロン、認

知症の原因となる脳血管症、肥満とか高血圧症そういつた症状によつて認知症が発生するので、できるだけ医療費の抑制にもつながるといふことで、健診等も多くの方が受診していただくような、早期発見・早期治療というこ

Q 認知症は多くなると考える。その予防の対策は。

町長 本人は選挙権を失つたり、自治体等で印鑑証明の印鑑登録を抹消されるとか、国家試験である医師、税理士等の資格等が失われる。また、本人の判断能力によつてその段階、区分がなされる。後見であれば資格を失う。保佐も同じ。補助はその資格については該当がない。

Q 戸籍にも後見、保佐、補助でも記載されるかどうか。

住民課長 戸籍には一切記載されることはない。

Q 河川等護岸の竹木等の対策について、例として、河底の木、木の枝が対岸に超えているところもある。梅雨を迎え洪水の危険性を伴うが、どう思うか。

建設課長 河川敷地にヨシが繁茂するなど、流れを阻害する恐れがある箇所も見受けられる。また、護岸の竹木が覆いかぶさっている箇所も見受けられる。維持管理については、例年玉名事務所に要望等を行い、対応を求めているところ、予算等の関係もありすべてに対応いただくことはできない状況である。今年度も7カ所の掘削や雑草処理を要望している。



情報共有のため早めの要望、協議を行うことが得策であり被害が少なくなるよう望む。

なお、県との委託契約の中には、地域住民で処理できない高木や竹林、繁茂の著しい箇所については県と協議を行うとされている。

Q 防災上の対策として河川の断面の確保はどう思うか。

建設課長 流域面積に応じた河川断面の確保が望ましいのは言うまでもない。繁茂した樹木だけでなく、堆積した土砂等の撤去というの

Q 大きな解決の手段ではないかと思う。

県にはその要望を行っていくということでも土砂の掘削等、堆積がひどいところについては対応をしているし、確認を平常時に行っていくことに取り組んでいきたい。

産業厚生常任委員会

7月9日(月)～11日(水) 宮古島市・名護市を視察

◆沖縄県宮古島市「社会福祉法人みやこ福祉会」

知的障がい者の自立支援の在り方を探るべく、就労継続支援施設を視察しました。

- ①野菜ランドみやこ 就労継続支援A型。総面積900坪の施設でサラダほうれん草、水菜、レタス等を水耕栽培。夏場でも量産されている。
- 就労継続支援B型の②パン工房アダナス ③みやこ学園。
- ④グループホームみやこ 共同生活援助で、野菜ランドみやこ等の施設に通われている。
- ⑤障害者就業・生活支援センターみやこ 自立支援に向けた先進的取組みと各施設の運営状況を研修しました。



▲レタスの水耕栽培

◆沖縄県農業研究センター名護支所

温暖化に強い水稻の品種改良・育苗の先進事例を研修しました。

県の奨励品種「ゆがふもち」、「ミルクイサマー」等が開発されていました。現在の主流品種は「ひとめぼれ」。

本町の主流品種のヒノヒカリは、夏場の高温における品質低下が懸念されているので、高温に耐える品種の導入が必要であると思われました。

総務文教常任委員会

7月6日(金) 八女市黒木町を視察



八女市黒木町のオンデマンド型交通システムについて研修しました。電話予約によるドアツードア方式の乗り合い、10人乗りワゴン型タクシー12台で運行しており、利用方法は事前登録、電話予約、玄関から玄関まで送迎、利用料金は片道300円といった運行システムでした。利用見込み1日220人、23年度実績は62,729人、運行経費5,700万円ということでした。アンケート調査の結果、利用状況は通院や買い物が主で、利用者の85%が70歳以上であり、84%が女性、効果については80%の人が「暮らしが便利になった」94%の人が「乗り合いタクシーは必要」との結果であったそうです。町の人口、面積、バス路線の違いなど、比較検討すべき事項が沢山ありますが、色んな形態を調べ、当町の交通体系を検討していく必要があると学びました。

南関町の高齢化と介護問題

日本は現在、世界のどの国も経験したことのない高齢社会を迎えています。総人口に占める65歳以上人口の割合(高齢化率)は、1990年の12.0%から、2011年には23.3%とほぼ倍になりました。今後も上昇を続け、2055年には40.5%に達し、2.5人に1人が65歳以上、4人に1人が75歳以上となると見込まれています。南関町の高齢化率は2011年に32.6%に達しており、もっと早く進むことは確実で、同じ比率で進行するなら57%にも達します。

高齢化率の上昇に伴い、要介護の高齢者が増えるのは当然なことであり、H23年の要支援・要介護の人の割合は21.8%に達しました。介護が必要になった家庭では、介護の相談を何処にしたらよいのか、介護サービスの内容や料金、多様にある施設の区別等など、悩みがつきないようです。そのような状況から今号で、介護予防と介護保険を取り上げました。

介護予防：NPO法人「エイライフなんかん」(町公民館内、☎57-9616)が町の委託を受けて介護予防事業に取り組んでいます。各地区の公民館等でコミュニケーションづくり、筋トレ教室を定期的に開催しています。

介護保険：40歳以上の人を対象とした社会保険制度で、保険料を納め、要介護・要支援状態となったときに、介護サービスを受ける制度です。介護保険を使った介護サービスを利用するためには、要介護(要支援)の認定を受ける必要があります。



▲エイライフなんかんによる介護予防体操

■介護認定

1. 要支援には段階1と2があり、生活機能の低下の度合いによって分けられます。
2. 要介護には段階1～5まであり、身の回りの世話を、見守りや手助けが必要といった段階1から、日常生活のための機能が著しく低下しており、全面的な介助が必要の段階5までの区分があります。

■相談窓口

まずは役場福祉課(☎57-8503)にご相談下さい。

南関町地域包括支援センター(小原1857 ☎69-9760)や南関町社会福祉協議会(小原1405 ☎69-9020)の他、町内にある各施設に相談されてもよいでしょう。

介護サービスの内容については、平成24年6月、町配布の「みんな笑顔で介護保険」を参照下さい。

議会日誌

5~7月

主なものを載せています

- 5月2日 広報調査特別委員会
- 5月7日 広報調査特別委員会
- 5月8日 総務文教常任委員会
- 5月14日 広報調査特別委員会
- 5月17日 全員協議会
- 6月1日 総務文教常任委員会
- 6月7日 議会運営委員会
- 6月14日 } 6月定例議会
- ~18日 }
- 7月5日 広報調査特別委員会
- 7月6日 総務文教常任委員会視察研修
(八女市黒木町)
- 6月9日 } 産業厚生常任委員会視察研修
- ~11日 } (宮古島市、名護市)
- 7月12日 全員協議会
- 7月23日 広報調査特別委員会
- 7月28日 広報調査特別委員会
- 7月30日 総務文教常任委員会

Topic! 喫茶

エイライフなんかんの設立記念パーティ、開会前のセレモニーとして、エイライフなんかん茶道部の方達によりお茶を点でて頂きました。

茶道といえば、作法の難しさが頭に浮かびますが、形にとらわれず自由にお飲み下さいと声をかけていただきほっとしたものです。お陰でお菓子、お茶の味を感じることが出来ました。

茶道には多くの決まりごとがあり、一人前になるには何年もかかるそうです。子どもの頃から経験を積んでいけば、色んなことに興味を持ち、成長の糧となることでしょう。お茶を始めると、その道具はもとより、茶室、床の間、掛け軸、活け花、庭園、料理等々、その奥の深さに魅入られ、作法を学んでいくうちに、芸術的感覚まで身に付いていくそうです。

「わび」、「さび」という日本の美意識、お茶を喫して静かな時間を楽しむ、400年以上も続く日本独自の茶の道は世界に誇れる文化だと思います。着物の少女たちの愛らしさが好評でした。



写真は正座が不得手な外国人のために考案された椅子式での様子です。



編集 (広報調査特別委員会)

委員長 打越 潤一

副委員長 井下 忠俊

委員 田口 浩仁

委員 鶴地 敏高

委員 境田 敏高

発行責任者 議長 本田 真二

南関町では高齢化率が33%に達しています。「平均寿命」が延びるということは喜ばしいことですが、「健康寿命」を伸ばすことが大切であると思います。明るく元気な町づくりのために、常に「健康寿命」を頭の片隅に置きたいものです。(井下)

ロコモティブシンドローム、この言葉をご存知でしょうか。これは、加齢による運動機能の衰えから、転倒による骨折といった要介護リスクが高まる状態及び要介護となった状態のことを表した新たな国民病として使われている言葉です。南関町では、今年7月に設立されたNPO法人「エイライフなんかん」により、高齢者の方のため「元気づくりクラブ」と銘打った介護予防体操が各地域で盛んに行われています。健康体操など大げさに考えずに、まず、隣近所の人達と一緒に自分達で出来る範囲から始められたら如何でしょうか。

ティーブレイク

編集後記

